

とっとり Now

vol.148
鳥取県総合情報誌
WINTER 2025

巻頭集

こだわりの空間で
お気に入りの一冊を

心潤す“まちなかライブラリー”





巻頭特集：くつろぎながら本が読める空間（ちえの森 ちづ図書館）



巻頭特集：多様な使い方が可能になったエリア分け（キナルなんぶ 法勝寺図書館）

● 表紙イラスト ●

Sarapo サラポ プロフィール

1995年鳥取県生まれ。米子高専卒。町中のショーウィンドーや看板等に絵を描く。今まであまり知らなかった地元の面白いものを発見するたびにワクワクし、筆を走らせている。

148号表題「和紙と鹿」

因州和紙の産地、青谷と佐治の和紙を背景に「漉く」という文字から連想した鹿がメインのモチーフ。角には和紙の原料の植物の花や実、和紙のランプをあしらった。また和紙作りに欠かせないきれいな水が流れる川と、たどり着く海。海を見守るのは「長尾鼻灯台」（青谷町）。



とっとり Now WINTER 2025

vol.148
鳥取県総合情報誌

あーとの森	洋画 石田 しのぶ	2
巻頭特集	こだわりの空間でお気に入りの一冊を心潤す“まちなかライブラリー”	4
カメラアイ Camera Eye	大寒の池での井戸端会議	14
温泉ソムリエがゆく しっぽり天然ONSEN漫遊記	みなと温泉ほのかみ	16
ここにこの人	漫画家 かわにし よしと	17
開運おかげ詣で 因幡と伯耆の神社	御田八幡神社	20
魅惑の純喫茶	珈琲喫茶 杜	21
VIVA! トットリLIFE 輝くIUJターン者たち	カフェオーナー	22
TOTTORI おもしろ発見手帖	活躍する灯台あれこれ	24
information	Web連載「読みものroom」	25
Voice・読者プレゼント・編集後記		26

□「特集」は休みます。

『とっとりNOW』が毎号届く
「ふるさと来LOVEとっとり」
会員を募集中！

入会
年会費
無料



『庭園一五月雨』（油彩・コラージュ、S100号、2023年）



チャレンジに、制限はなく、終わりもない。萩焼の絵付けをしていた石田しのぶさんが、本格的な画家を目指したのは40歳だった。生来の絵心によりやく目覚め、遅すぎたハンディキャップを挽回しようと教室に通い、和洋にこだわらない技法を習得した。

掲載の『庭園一五月雨』は、足立美術館（島根県）の日本庭園を題材に、洋画の中に日本画の平面的なデザイン感覚を取り入れた。大胆自由な遠近法と植栽や石の配置は、爽やかなデフォルメで迫り、交錯する雨脚の律動感もモダンな効果十分である。

『日々是好日』は「介護シリーズ」の一作。老父や義母の介護を見つめたまなざしは、簡潔な輪郭線と中間色が温かく、慈愛に満ちた暮らしを表す。注目すべきは白抜きの画面で、この間合いは「庭園」と「介護」にも共通し、穏やかな空間を形成している。

絵画・版画・立体作品など、多様な素材と表現を用いて、「カタチの変化を追求するのが楽しい」と語る石田さん。心とむその魅力は、もちろんカタチと色彩だ。「古典に学びながら、深掘りした作品をライフワークにしたい」と、高まる意欲は尽きることを知らない。

心とむカタチと色彩 洋画 石田しのぶ



『日々是好日』（油彩、S100号、2018年）

文／角秋勝治
写真／田中良子



いしだ・しのぶ

1955年生まれ。2001年、現代洋画精鋭選抜展銅賞。2006年、しんわ美術展で奨励賞、22年に同展でグランプリを獲得。2014年、二紀展初入選、24年に同展奨励賞。二紀会所属。米子美術家協会所属。

こだわりの空間で お気に入りの一冊を



心潤す、まちなかライブラリー

一冊との出会いで人生が変わり、
文中の一行が生きていく
道しるべとなることがある。
本は心を癒やし、
知識や思考を深めてくれるパートナー。
お気に入りの一冊を求めて歩けば、
街のそこかしこに、こだわりの図書空間がある。
個性豊かな「まちなかライブラリー」を巡った。



ちえの森 ちづ図書館 (智頭町)



5 キナルなんぶ 法勝寺図書館 (南部町)



オオサンショウウオほか まちの`宝物`ずらり

キナルなんぶ なんぶふれあい館

旧法勝寺図書館をリニューアルし、キナルなんぶの一部に組み込んだ「なんぶふれあい館」は、南部町の自然、歴史、文化、人などを紹介する“宝物”を展示している。

そのシンボルがオオサンショウウオの「キナルん」。実は、広島市内の動物園から譲り

受けた“移住者”だ。「特別天然記念物のため捕獲できない」（南部町教育委員会・大塚幸さん）ためだという。

それでも飼育展示にこだわるのは、同町では個体数が限られているオオサンショウウオを町内最重要の文化財と位置付け、人工巢穴の管理などで保護活動に注力しているからだ。また大塚さんは「町民でも姿を見る機会はめったにない。生の姿を見て欲しい」と話す。

このほか、1967年まで町内を走っていた「法勝寺電車」のジオラマや、遺跡や古墳からの出土品なども並び、楽しみながら学べる魅力が満載だ。

料 無料 開 9:00～17:00

図書館エリアの中心部に位置するシンボルタワー。
エリア内は座ったり、寝ころんだりできるスペースがあり、
思い思いのスタイルで読書ができる



21時まで開館、 仕事帰りにぶらり

にぎやかですが、来館者の方々も温かく見守ってくれている。遊びの合間にも少しずつ本に親しんでくれる」と角田さん。

もうひとつの特徴は夜の開館だ。会議室などが夜間に利用されるのにあわせて、図書館も週5日、午後9時まで開館。隣接する米子市などに通勤する町民らから歓迎されている。

同館の年間利用者は、旧図書館と比べ約6割も増加したという。タブーを排除した柔軟な運営が、文字通り利用者が「キナル」（来る）理由のひとつとなっている。



所 西伯郡南部町法勝寺341
電 0859-66-4463
開 【火～土曜日】9:30～21:00
【日曜・祝日】9:30～18:00



Web

キナルなんぶ 法勝寺図書館



エリア分けで会話、飲食もOK

飲食しながらの読書も可能な憩いの空間は、放課後の一時、子どもたちの広場と化し、夜には文字の世界に安らぎを求める人たちの寛ぎの場となる。

2021年に開館した南部町の「キナルなんぶ 法勝寺図書館」は、1日の中で何度か様相を変える。

同館は、もとも公民館があった場所に新築された複合施設「キナルなんぶ」の一角を占める。施設内には、多目的ルームや会議室などの「生涯学習エリア」、リモートワークなどに利用できる「コワーキングスペース」、コーヒーやパンの販売店とくつろぎスペースからなる「カフェエリア」も。館内に多様な表情を感じる理由は、これらの施設と同居していることにある。

町民がゆったりとした時間を過ごす平日の昼下がり、書架の前ではおしゃべりする知人同士、カフェエリアではジュースを飲んだり、パンに手を伸ばしたりしながら本を読む人の姿があった。多くの図書館でタ

ブーとされる行為が、同館では許されている。

館長の角田有希子さんは「エリア分けすることで、会話が可能な場所を設けた。また、特定エリアであれば、飲食しながら本の閲覧もできますよ」と、独自ルールを説明した。

同施設の北側には町立西伯小学校が隣接しているため、放課後には100人を超える子どもたちが毎日、どつと押し寄せる。当然、会話はもちろん、通路ではしゃぐことも。「確か



飲食も可能なくつろぎスペースでは、児童や生徒が勉強する姿も。それぞれ自由な使い方で利用できる

「本の楽しさを、子どもの頃に知ってほしい」と田上さん



所 鳥取市大覚寺124-17
電 090-7504-3588
※体調不良により休業中
(11月末現在)



Web

元司書が営む 児童書の宝庫

公園前の小さな本屋 みつけどり



本の関連グッズなど愛らしい
小物もずらり

鳥取市郊外の住宅地の中、公園の前の白い外壁に「こどものほんのふるほんやです」とカラフルな文字を張り付けた家がある。店名を書いた看板も立ててあるが、すぐには書店と分からない。それが、児童書専門古書店「公園前の小さな本屋 みつけどり」だ。

店の面積はわずか13平方メートル（8畳）。四方の壁に備え付けた書棚には、古本、新刊、バックナンバーの月刊絵本などざっと4千冊ほどが並び、近所の親子、学校図書館の司書、読み聞かせのボランティアらが、評判を聞いてたびたび訪れる。店主の田上伸子さんは、鳥取市立図書館や小学校図書館で司書を務め退職後、児童書と関わり続けたいと思い、「いつそ自分でやってしまえ」と思いついて。夫（故人）が使っていた部屋を改築し2015年、自身の蔵書約2千冊で店をスタート。

「とつとり」と「本をみつくる」の思いを込めて、大好きなグリム童話の「みつけどり」を店名とした。

田上さんは、来店者と話をし、希

望を聞きながら、お薦めの本の内容を丁寧に紹介する。ある小学校図書館司書の女性は、「田上さんは児童書に関する知識が深いうえ、とにかく人柄が魅力的」と、厚い信頼を寄せる。

数年前からは、物語を覚えて子どもたちに生の声で語る「ストーリーテリング」の活動も始めた。「子どもたちに『本は楽しい！』と感じてほしい。物語を頭の中で想像しながら聞くことが、そのきっかけになればと。長年読み継がれた児童文学は心の奥底から感動が湧き上がってきます」。熱い思いを、穏やかな口調で話した。



公共図書館へつなぐ懸け橋に

「この私設図書館は小さいけれど大きな世界の入り口になります」

人口約300人の鳥取市用瀬町別府地区にある「別府ふれあい文庫」の壁には、こんなメッセージが掲げられている。

開設したのは、同地区在住で元鳥取市立用瀬図書館長の岸本修さん。2023年、地区集会所の一角に600冊ほどの本を置いてオープンさせた。

絵本や偉人の伝記、図鑑など児童書を中心に大人向けの小説など、ジャンルは多彩で、約8千冊ある自身の蔵書の中から手ごろなものを取りそろえている。子どもの読書活動を支援する公益財団法人から児童書の寄贈も受け、現在の公開冊数は700冊を超えた。

通常は無人で、貸し出し時には、利用者が名前と冊数のみを用紙に記入する方式。岸本さんは「必ずしも返却されなくてもいい。読まれない

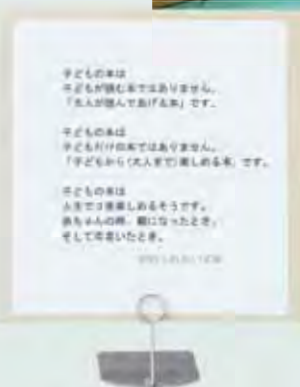
で棚にあるより、その本が好きな子どもに飽きるまで読んで楽しんでほしいから」と考えている。

県立図書館勤務を経て鳥取市立気高図書館や用瀬図書館の館長を務めるなど図書館一筋に生きてきた。退職後、「家にある本を地域に還元したい。少しでも子ども役に立てればと思った」のが、開設のきっかけだ。同地区から用瀬図書館までは国道をはさんで約2キロあり、幼い子どもたちにはかなり距離がある。近くに本に触れる場所を作りたいと思った。

一方で、壁には「できれば月に2度お子さんを 用瀬図書館につれて行ってあげてください」とのメッセージも掲げ、文庫の役割を「子どもの読書と公共図書館の懸け橋」と明確に打ち出している。岸本さんは「文字を読んで面白いという経験ができるのは人間だけ。読書は一生涯の楽しみ」と強調し、文庫の一層の浸透に知恵を絞っている。



「この場所が本に興味を持ってもらうきっかけになれば」と岸本さん



岸本さんの想いがこもった
メッセージカード。文庫内の
あちこちに展示されている



所 鳥取市用瀬町別府188（別府会館）
料 無料 開 8:00~20:00 休 年中無休



約4000冊の本が所狭しと並ぶ店内

成長に不可欠な 絵本の時間



前鳥取県図書館協会会長 山田 節子

「おかあさん、読んで」息子が絵本を抱えて私のおひざにちょこんと座る。私の活動の種は、母にならせてもらったことである。そして家庭文庫「きんたろう文庫」を開いたのが1991年。さらにそこから、読み聞かせグループ「児童書を楽しむ会つくしんぼ」「図書館フレンズけたか」「ブックスタートを支援する会けたか」「学校図書館ボランティアくれよんの会」と、仲間と共に活動の枝葉は次々と広がった。



どの活動も、絵本を介して子どもたちと楽しさの分けっこをし、絵本を取り入れた子育てのうれしさを伝えている。それは私の実体験による「楽しい、うれしい」を、そりや

あもう半ば押し売りのごとく、の発信である。

実は今、家庭の事情で活動を大幅に縮小している。逢坂小学校（鳥取市気高町）での読み聞かせと、鳥取市読書活動推進委員と講演会講師のみ。活動を積極的にしていた時より今の方が、「子どもの育ちにとって、絵本は不可欠だ」と強く思うようになった。

これから時代がどう変わろうとも、子どもたちは、豊かな言葉と感情をもって他者と関わり、自分で考え判断することができる大人になってほしい。周りにいる私たち大人は、共に絵本の時間をさあ！楽しもう。

★写真提供：山田節子



店の真ん中の丸いスペースに、居心地の良いイスが設置されており、くつろぎながら読書ができる

買いためた蔵書 1万冊を公開

「本のある暮らしにあこがれて」。丸山伊太郎さんが、本の収集を始めたのは中学生のころ。それから60年、今では1万冊をゆうに超えるまで増えた。

丸山さんが鳥取市内に開いた私設図書喫茶室「トリんく まんまる」では、その蔵書のほとんどを公開。店の壁面に置いた書棚は、隙間なく本で埋め尽くされている。

その時々「自分が読みたい」という欲求に基づき収集してきた。ベストセラーから詩集、料理や旅行のハウツー本、美術全集、辞書、絵本まで「何でも来い」。小説の隣に写真集、漫画の横に社会学など、本の大きさと背表紙の色を基準に並べている。

私設図書喫茶室 トリんく まんまる

目指すは本による
まちづくり



本の大きさと背表紙で色分けされた書籍。引っ張り出すまでどんな本かわからない面白さがある



「人と人のつながり生まれる場所になれば」と丸山さん

「目当ての本を探しながら、いろいろなジャンルの本との出会いが楽しめますよ」。それが丸山さん流だ。見つけた本は、店の真ん中に設けた広い楕円形のスペースで、コーヒーや軽食を取りながら読める。スペースはぐるりと低い壁で囲まれ、そこに腰掛けたり、もたれたりして自由な体勢で自分だけの世界に浸れる。「街の中のオープンな広場」をイメージしたという。

丸山さんは東京都出身で、長らく都内でカフェを営んでいた。鳥取県の魅力に触れるイベントへの参加をきっかけに2012年、大量の本と共に鳥取市に移住。目抜き通りでカフェを営む一方、20年12月にはこの

拠点を設け、鳥取の「トリ」と、つなぐを意味する英語の「りんく」、自身の名前の「丸」をつないで「トリんく まんまる」と命名した。

移住先に、縁もゆかりもない鳥取を選んだのは、「飲食を通して人が楽しみつながる」まちづくりができそうな場所だと思ったから。来年からは、15年近く経営したカフェをたたみ、ここの本の運営にシフトする。映画上映会なども企画中で、「本をきっかけに、さらに人と人が気軽につながる場所にしたい」と、気持ちを新たにしている。



所 鳥取市元町275 電 090-9133-1458
営 月・火・金・土・日曜 開 10:00～17:00
※営業日・時間は変更の可能性あり。
夜営業も検討中



Web

いつでもどこでも読める「電子書籍サービス」



24時間「いつでも」、自宅などに居ながらにして「どこからでも」、本が読める。インターネット時代に対応し、鳥取県立図書館は2024年、電子書籍サービスを始めた。利用者は、紀伊國屋書店の「KinoDen」を通じ、パソコンやスマホなどを使って電子書籍が読める。電子書籍には、直接来館しなくてもよいメリットのほか、音声読み上げや文字拡大の機能もある。同館司書・中村愛さんは「紙の本による読書が難しい方にとっても情報を得る機会が増えるよう、読書バリアフリーの観点からもサービス充実に努めたい」と話す。利用できる図書は約3,200冊、1日のアクセス件数は現在、約60件。今後も知名度向上のため

鳥取県立図書館

「PRにより力を入れたい」と中村さん。

約130万冊と県内の図書館では群を抜く蔵書を誇る同館。時代の変化に敏感に対応し、約20年前からビジネス支援にも注力してきた。図書館の資料を活用し、起業に至った企業も多くあり、全国的にも評価が高いのが特徴だ。このほか医療・健康情報コーナーを特設するなど、常に利用者に寄り添った情報提供を心がけている。

また、県内19市町村の公立図書館と緊密に連携し、「リクエストがあれば原則2日以内に市町村立図書館へ本を届けることができる」態勢を構築。今後も小さい県の強みをサービス向上に取り入れていく方針だ。

所 鳥取市尚徳町101 電 0857-26-8155

開 9:00~18:30(11~4月)、9:00~19:00(5~10月)、土・日・月・祝日は17:00まで(通年)

休 第2木曜、末日(12月は28日)、年末年始など



電子書籍サービス
利用案内Web

ちえの森 ちづ図書館



町民アイデアを随所に反映

おしゃべりや飲食も可能な「つどいの部屋」。イベントにも使え、冬は薪ストーブが活躍する



読書室やおしゃべりできる「えほんコーナー」

智頭町に2020年オープンした「ちえの森 ちづ図書館」は、木の温かさと木目の美しさが印象的な林業のまちのシンボル施設だ。高さ8階の天井には、長さ50メートルわたって智頭杉を使った意匠が施されているほか、書架やイス、テーブルには地元産材がふんだんに使われ、心地よい空間が広がる。薪ストーブを配置した部屋は、講座や映画上映などのイベントに使える好評だ。

6万冊の大移動も170人が参加



読者のメッセージが本に添えられている「つながる本棚」

まさに「智頭らしさ」満載だが、愛される理由は別にある。図書館の造りや機能、運営まで、3年間にわたって町民らが知恵を絞ってつくりあげた「わが図書館」なのだ。計画が本格的に動き始めたのは17年。建物の設計や施工は外部に発注したが、並行して町民有志によるワークショップや、児童・生徒による話し合いを何度も開催し、そこで出たアイデアや希望を設計・施工に反映させた。

個室のような造りの「書斎」、パーティションに囲まれた「くつろぎコーナー」など、居心地の良さにこだわった多彩な閲覧席は、同館の特色のひとつ。これらは住民意見を取り入れて、クッション性や静粛性がより高い造りに修正され、中高校生のための「ティーンズコーナー」は、生徒たちの要望を受けて当初計画よりも広くなった。町民が同館に寄せる愛着は、開館を半月後に控えたイベントで目に見える形で表れた。蔵書を新図書館に移動する「みんなで本の引っ越し大作戦」には、170人も町民が参加、協力し合い約6万冊を収めた。人気が高いのは新設された「つながる本棚」。利用者が他の誰かにも読んで欲しいと思ったお薦めの本にメッセージを添えて、立体展示されている。読者の声はまだ見ぬ読者に間接的に届くと好評で、利用が増えている。同館副主幹の葉狩麻早子さんは、「図書館の基本コンセプトには、知恵と和が広がる場所という思いが込められた。人と人がつながる場になれば」と話している。

木の温もりと木目の美しさが自慢の心地よい空間



所 八頭郡智頭町智頭2090-1

電 0858-75-4123

開 9:30~18:00

(土、日曜日は17:30まで)

休 月曜日



Web

智頭杉のパーティションに囲まれた「くつろぎコーナー」、一人で静かに集中できる「書斎」、中高生の要望を取り入れた「ティーンズコーナー」(写真左から)



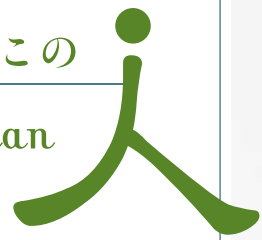
大寒の池での井戸端会議

(鳥取市気高町)
け たちょう

撮影／NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部会員
野間 修一 (鳥取市)

秋が深まる頃、シベリアなどから家族でやってくるコハクチョウたち。冬限定の日光池は毎年、彼らに快適な越冬場所を提供する。大寒の空の下、集って楽しくおしゃべりをしているかのような光景に、仲間に加わってみたいくなった。

ここにこの

Human
Life

新聞や雑誌、コミック等で長年、その画力を発揮し、古希を過ぎてから、恩師との約束だった絵本作家デビューを果たした漫画家・かわにしよしとさん。5年前に故郷の倉吉市にUターンし、ユーモアあふれる人柄で地域とつながり、現在も精力的に創作活動に取り組む。

漫画家

かわにしと

Yoshito
Kawanishi

文／倉恒 弘美 写真／山田 真実

温泉ソムリエがめぐる

天然 たっぷり
ONSEN
漫遊記みなと温泉
ほのかみ
(境港市)

眺望も源泉もひとり占めの贅沢湯

海まで15m、海岸線ぎりぎりに建つ「みなと温泉ほのかみ」は、何度訪れても見事な眺望に圧倒される。目の前に広がる日本海の大パノラマ、その先には美しい稜線を描く秀峰・大山を望み、ときに飛行機が頭上を滑空する。

そんな景色と天然温泉を「ひとり占め」できるのが別館の「家族風呂」。全10室の個室で、木材・タイル・陶器の趣が異なる浴槽とオーシャンビューのバルコニー付きで、45分間貸し切りにできる。

『紅染月』の浴室へ。天井まであるガラス窓の向こうは、絵画のごとく絶景！窓を開ければ、露天風呂のような

開放感が心地いい。浴槽は風情ある陶器製で、ひとりがゆったりと体を預けられるサイズだ。勢いよく注がれる温泉は、地下1500mから湧出した「ナトリウム塩化物泉」。さらりとした湯ざわりなのに、時間がたつにつれ、パック後のようにしっとり滑らかな肌感に変化するのも面白い。保温効果も抜群で、特に冷え性の人にオススメだ。

「利用ごとに温泉を入れ替えるので、源泉100%かけ流しを楽しめます」と館長の小谷明輝さん。入浴後、本館のパウダールーム（女性専用）や休憩室を無料で利用可能。至れり尽くせり、大人の贅沢時間を満喫できる。

PICK UP
POINT

家族風呂はウェブで予約可能。人数制限はなく、ファミリーなら『夢見月』など、大きめの浴槽のある浴室がベスト。室内に鏡付き洗面台やヘアドライヤーも用意されていて、身支度を完結できる。ボディソープやリンスインシャンプー完備、バスタオルのレンタルもあり、手ぶらでOKなのもうれしい。

施設情報

Web



所 境港市竹内団地255-5 夢みなとタワー隣
☎ 0859-45-1213
⌚ 家族風呂10時～22時（受付21時まで）
※本館は21時終了、受付20時半まで
休 第3火曜日（祝日の場合はその翌日）
料 家族風呂2000円（1室）※本館は大人850円

恩師は版面界の巨匠

物心ついた時から、絵を描くことが好きだった。

「この子は将来、面白い」。小学3年生の時の担任で、版画家の長谷川富三郎さん（1910－2004）の言葉は、かわにし少年の胸に深く刻まれた。「褒めてもらえたことがうれしくて」と懐かしそうに恩師との思い出を語る。イラストや漫画の道に進むきっかけをつくってくれた人生の大恩人だ。

東京都内の芸術学部には合格したが、自身のイメージとギャップがあったため進学せず、浪人生活へ。時は1960～70年代の高度成長期、芸術界ではアンダーグラウンド(※)が席巻せきけんしていた。その中で、国内外で評価を高めていた美術家の横尾忠則ただなりさんは、かわにしさんにとって神様のような

次々と「面白いこと」に挑戦

憧れの存在。「自分も何か面白いことがしたい」と刺激を受けるなか、彼も浪人した後、大学に進学はしなかったことを知り、専門学校へと進む。

4コマや政治漫画で躍進

浪人時代にアルバイトをしていたアニメ制作会社にそのまま就職、全国ネットの子ども向けテレビ番組の絵描き歌や、国民的アニメ『アタックNo.1』『サザエさん』『それいけ!アンパンマン』などの作画・絵コンテ制作などに携わる。

ブライベートでは、友人らと自費出版に挑戦。そのイラストがきっかけとなり、雑誌・新聞で芸能人の似顔絵などの仕事を手がけるようになった。

45歳の時、アニメ制作会社時代の先輩が漫画家デビューしたこと
に触発され、青年漫画雑誌の4コ



漫画、似顔絵、絵本…
多岐にわたり描く

1989年からは、読売新聞日曜版・政治面で似顔絵、2001年から、政治漫画を12年間担当。夕方の最新ニュースをもとにアイデアを練り、描き上げるまでわずか3時間。日々のニュースに常にアンテナを張り、かなりの集中力、瞬発力が求められた。「人生には自身でも想定外の不思議な力を発揮できる時期があるらしく、まさにそれだったかなと。きつかったけれど、やりがいも感じ充実していた」と振り返る。話題と

なり、テレビ番組のVTR出演依頼も舞い込んだ。

70歳で絵本作家デビュー

かわにしさんの人生は、「面白いこと」への挑戦の連続だ。同時に、アニメ時代からの親友・漫画家の高橋春男さん（故人）と組んだオリジナルバンド「セコハンヘッド」は、スポーツ紙に取り上げられたことも。さらに直木賞作家・ねじめ正一さんとは、今でも親交があるなど人脈の幅は広い。

13年、読売新聞の連載が終了して時間に余裕が生まれると、恩師の長谷川さんとの約束でもあった絵本の制作にとりかかる。

難産の末、19年に出版した『いろいろなにのいろいろさん』（す



2019年に出版した初の絵本『いろいろ
くにのいろいろさん』（すずき出版）★



読売新聞で連載していた政治漫画の数々★



マ漫画コンテストに応募。見事、最優秀新人賞を獲得して4コマ漫画家としての顔も持つように。「ギャグマンガのデビューは、20代を過ぎると難しいとされる漫画業界で、40過ぎの受賞は『珍事』と編集長に言われた」と笑う。この後、複数の連載を持ったが単行本化は難しく、未コミックス化の巨匠^ゆと、インターネットで擲^や擧されたことも。

かわにし・よしと

1948年、倉吉市生まれ。93年、『ビッグコミックスペリオール』（小学館）第1回4コマフェスティバル最優秀新人賞受賞。報知新聞、『スーパージャンプ』等々で連載。1989年から読売新聞で似顔絵や政治漫画を24年間担当。2019年、絵本『いろいろのくにのいろいろさん』（すずき出版）を出版。倉吉市報に4コマ漫画「くらよしやすりちゃん」連載、スマホで撮った写真から似顔絵イラストにするサービスほか、『似顔絵教室』（会場：伯耆しあわせの郷）も。日本漫画家協会会員。趣味はウクレレ。

※アンダーグラウンド＝商業性を否定した文化・芸術運動を指し、1960年代後半に起こった。アングラと略される

ずき出版）は、5つの色をテーマに、それぞれの色の国から飛び出す生き物たちによって紡がれるストーリー。「先生が亡くなられてからだったけど、ようやく約束を果たせた」と、思い入れの深い一冊。今年、赤ちゃん向けのテレビ番組でも紹介された。

5年前、倉吉市の実家に拠点を移した。地元の役に立ちたいと、行政や企業の依頼を精力的に引き受けている。県民約500人を「收藏」した「似顔絵まちなか美術館」（鳥取県立美術館）をはじめ、県内のそこかしこで4コマ漫画や似顔絵を目にする。「今後は絵本の制作や、SNSで4コマ漫画を発信していきたい」と、創作意欲はいまだ尽きない。



かわにしさんが似顔絵を担当する「似顔絵イラストサービス」(倉吉観光MICE協会主催)★



繊細な模様が施されたビンテージ食器が並ぶ棚(写真左)とバラの花びらをかたどった生クリームを浮かべたウインナコーヒー



珈琲喫茶 杜 (米子市)

令和によみがえった昭和の“止まり木”

1杯ずつサイホンでいれるコーヒーは、芳醇な香りと深い味わい。豆本来の個性が引き出され、雑味や苦味も少ない



「珈琲喫茶 杜」は1983年、かつて米子の人々に親しまれた「本町横丁名店街」で創業。その後、名店街の取り壊しによる移転後もくつろぎの居場所として愛されてきた。

ピンチが訪れたのは2021年。

「閉店予定との知らせにショックを受けた」と常連客だった瀧恵美さん。「ここでどれだけ元気をもらったか。この店を守らなければ」と一念発起、翌22年に3代目として店を引き継いだ。



昭和の喫茶店の名物。
「ルーレット付きおみくじ器」

幸いサイホンの扱いは、学生時代のアルバイト先で覚え、趣味から独学で始めた製菓のスキルもあった。そして24年には現在地に移転、営業を続けている。手書きイラストの描かれたメニューやビンテージ食器など、小さなスプーンひとつにも、店主の個性が感じられる。

令和によみがえった昭和の“止まり木”は、町行く人々に今日も憩いのひと時をもたらしている。



メニューの文字、イラストは店主・瀧さんの手書き



珈琲喫茶 杜

所 米子市東倉吉町54

営 12時～17時 休 火曜・木曜

※急な予定変更もあり。Instagramで要確認



Instagram

文/日高 むつみ 写真/田中 良子

東京にある鳥取藩主の産土神



御田八幡神社の社殿

御田八幡神社 東京都



千鳥破風 軒唐破風

的場護国神社の社殿

赤ちゃんの健やかな成長を願い神社で祈禱を受ける「宮参り」。元々は「産土詣」といい、土地にはそれぞれ守護神がいて、人が生まれる前から死んだ後まで、また他所に移り住んでもずっと守ってくれるという考えによる。この神を「産土神」、こうした信仰を「産土信仰」と呼び、室町時代の文獻に初めて記されており、人の移動が増える江戸時代、ますます盛んになった。

面白いのが大名の産土神だ。国元と江戸に屋敷を持ち、妻が江戸に住むことが原則だった大名の場合、子



鳥取城跡にある「二ノ丸御庭八幡宮」跡

どもは江戸生まれ、つまり産土神は江戸の神様ということになる。
御田八幡神社(東京都)は、江戸時代、ここから18キロ離れた鳥取藩主池田家の分家(東館江戸屋敷)に生まれた第10代藩主・池田慶行の産土神だった。そのため、慶行の国入りに併せて、鳥取城内に同神社の分霊を祀る「二ノ丸御庭八幡宮」が創建された。180年近くたった現在では、石垣と10段ほどの階段が名残をとどめるほどだが、社殿は的場護国神社(鳥取市)の境内社「的場護国神社」として現存している。手がけたのは、藩お抱えの職人・小倉園三郎。軒下の彫刻が見事で、千鳥破風に軒唐破風を重ねた屋根は、御田八幡神社のそれとよく似ている。

協力/伊藤康晴(鳥取市歴史博物館学芸員) 新宿下落合氷川神社

文・写真/角田 治

ご利益

必勝祈願、出世開運 ほか



ビルの間からわずかにのぞく鎮守の森

開運
おかげ
詣で
因幡と伯耆の神社



つのだ・おさむ グラフィックデザイナー。神仏探訪家。『山陰の神々 古社を訪ねて』(山陰の神々刊行会)など、神社にまつわる書籍の取材・執筆・撮影。

神社情報

社号:御田八幡神社 ☎ 03-3451-4687
所 東京都港区三田3丁目7-16

「インテリアは、国内外あちこちで気に入ったものを調達し、展示品はこの家の蔵から出てきたものもあります」と潮さん



カフェオーナー（南部町）

潮 勇太さん

南部町出身

- ◎移住前の住まい／タイ
- ◎移住時期／2022年
- ◎現在の仕事／カフェオーナー

古民家Cafe Etsu
〒西伯郡南部町猪小路409
☎080-5288-5669



Instagram

実家改装しカフェをオープン あふれるセンスで客魅了

レトロモダンな雰囲気の店内。
居心地が良くくつろげる空間が女性に人気



潮さんは「こっちに帰ってきて、改めて気付きました」と、料理をするうえで鳥取の食材のレベルの高さ、水のおいしさを感じているという。

客層は40〜50代の女性が多く、SNSで情報を得た旅行中の外国人が訪れることもしばしば。将来的には米子市内に居酒屋を開き、さらには東南アジアに鳥取の食材を使った店を進出させたいとの抱負もある。故郷を拠点にした今後の展開に注目したい。



From Thailand



VIVA
トトリ
LIFE

輝くIJUターン者たち

文／林 佐弥子 写真／萱野 雄一

2年前にオープンした南部町の山間集落にある完全予約制のカフェ。

若きオーナーは東京、愛知、タイで飲食業の経験を積み、Uターンした潮勇太さん。センスあふれる空間と本格的な味で、訪れる客を魅了している。

祖母への想いを店名に



鳥取県と島根県をまたぐ県道の途中、山に囲まれた小さな集落の中にそのカフェはある。築130年という古民家を改装し、2023年10月にオープン。染め物の暖簾がかけられた門をくぐり中に入ると、欧風アンティークの家具とシャンデリアといった外観からは予想外の空間が広がっている。大正ロマンを感じる、どこか懐かしく、とても居心地のいい空間だ。

オーナーの潮勇太さんは、料理人を目指して18歳で上京。多様な店で調理を経験後、店長を任されるなどキャリアを積んだ。「いずれは独立」を念頭に、会計事務所で働いた

こともある。

26歳のとき、タイの飲食店で働く先輩から「一緒にやってみないか」と誘われた。「初めての海外で少々不安はあったが、気候も人もおだやかで暮らしやすく、仕事も順調だった」

しかしタイに渡って4年目、新型コロナウイルスの影響で店の営業継続が難しくなり、日本への帰国を決意。その時、かねてからの目標であ



メニューは月替りで完全予約制。
写真中央は、看板スイーツのモンブラン
＝写真提供：潮勇太

発信したい鳥取の食材

看板メニューはエスニック料理とスイーツのモンブラン。本場仕込みのエスニック料理は、フレンチと融合してクセの強さを緩和し、日本人にも食べやすい。試行錯誤を重ねたモンブランは、クリームを目の前で絞る「生絞り」。出来立ての味とそのライブ感が人気だ。どちらもこだわりの地元食材を使用し、確かな腕前による本格的な味が楽しめる。

【I・J・Uターンの相談窓口】

公益財団法人
ふるさと鳥取県定住機構

☎0120-841-558

とっとり移住定住
ポータルサイト
「鳥取来楽暮」▶



Web

当会のWeb頁内「読みものroom」では、3つの秀逸なコラムを連載中。下記に内容の一部を紹介します。続きは各コーナーの2次元コードを読み取ってお楽しみください。毎月1日に更新中。



幼少から本に囲まれた人生を過ごしてきた古書店の店主が、どこかしらに「鳥取」と縁のある本を、独自の視点で掘り下げるエッセー。また店主自らが描くオリジナルの挿絵にも注目。



Web

すべての道は鳥取に通ず

古本屋 ふまじめ乱読日記

文・イラスト/前田 環奈

【Profile】まえた・かな 古本屋「邯鄲堂」店主。その昔、ラムネ工場だった古民家をリノベーションした店の帳場で、本の販売をしたり、陶磁器の修理（金継ぎ）をしたり、文章を書いたり、イラストを描いたりしている。

URL <http://kantando.blog.fc2.com>

更新月：2・5・8・11月



文・イラスト/ sarapo

【Profile】さらぼ 食べ物や生き物をよく描いているイラストレーター。クジラと空模様が好き。飲食店は、自宅では味わえないその場限りの出会いと雰囲気が楽しみ。どんな人がどんな思いで作っているか…、知りたいことがまだまだいっぱい！

URL <https://sarapon.com/>



Web

更新月：1・4・7・10月



ヒョットコイトウムシオイガイ貝殻標本

自然史・歴史・民俗・美術・芸術に関する資料を総合的に研究し展示する「鳥取県立博物館」。各分野のエキスパートである学芸員が、収蔵品にまつわる「究め話」を紹介しています。



Web

もの知り学芸員の究め話

ケンパク宝蔵

更新月：3・6・9・12月

照らし導く海の案内人 活躍する灯台あれこれ

今の形の灯台が西洋から伝わり、日本の港に建設されたのは明治時代。目を引く姿で岬に立ち大海原を照らし、多くの船を安全に導いてきた。時を経て、歴史・文化的価値のあるランドマークとしても注目される、その一部を紹介する。

【協力：鳥取市青谷地区振興プロジェクト実行委員会・境海上保安部】



VOL.19



長尾鼻灯台 光の強さは県内一

火山活動で海に突出した溶岩台地の岬、長尾鼻で70年以上働く灯台。放つ光の強さは39万カンデラ（※1）と県内一。塔下の「夕陽が丘展望広場」からは、大山や島根半島、隠岐の島などが望める。

※1 カンデラ＝光の強さを表す単位。1カンデラは、ろうそく約1本分

設置年／1953年 所 鳥取市青谷町青谷
光り方／単せん白光 毎8秒に1せん光
高さ／平均水面上から灯火までの高さ68m
地上から構造物の頂部までの高さ14m

境港防波堤灯台



県内最古、レトロモダンな姿
1931年に点灯開始した県内最古の灯台。1967年に灯台へと続く防波堤が埋め立てられた。その光は約15km先まで届き、境港の玄関口を示すシンボリック存在だ。レトロモダンな白のモザイクタイル張りの外壁が海に映える。

設置年／1931年 所 境港市昭和町
光り方／等明暗白光 明3秒暗3秒
高さ／平均水面上から灯火までの高さ13m
地上から構造物の頂部までの高さ14m



- 種類：岬などに建てて船に位置を知らせる「沿岸灯台」、港湾内の航路を知らせる「防波堤灯台」などがある。
- 建築：素材は木、石、レンガ、鉄、コンクリートなどを使用。どの方向から見ても同じに見えるように円筒形、四角形、八角形、円すい形などで造られ、背景に溶け込まない目立つ配色にすることもある。そのフォルムの違いも魅力のひとつ。
- 光の方：灯質という。光を見ただけで識別できるように色、回数、1周期にかかる時間の組み合わせが、近隣で重複しないように設定されている。

歴史を知って再びつながる

鳥取市青谷町青谷地区は、長尾鼻が港の目印となり、弥生時代には朝鮮半島などとの交易、江戸時代には北前船（※2）の寄港地として、モノが集まり、文化が生まれる交流の拠点として栄えてきた。その地に建てられた長尾鼻灯台は、1967年まで宿舎に職員が家族と常駐し、敷地内で地域の運動会が催されるなど地域との関わりが強かった。しかし灯台の自動化に伴い、住民の認知や関心は次第に失われていく。そうした中、有志らが「再びにぎわいを」と結成、「海と灯台プロジェクト（※3）」に応募し採択された。2022～23年度は地元の高校生を巻き込み、海とつながる同町の歴史を学んで漫画化。また、観光マップ製作やレンタサイクルステーションも設置した。さらに今秋には灯台の下でコンサートも開催。まちづくりへの「希望の灯、を」ともしている。

※2：北前船＝江戸時代半ば～明治時代にかけて、大阪と北海道を往来した商船

※3：海と灯台プロジェクト＝灯台を通して地域の海の魅力や歴史、文化を再発見し、活性化につなげる取り組み

知識と精神力が不可欠な「灯台守」
灯台の敷地内に設けられた宿舎に暮らし、保守管理の業務を担ったのが「灯台守」。高い専門的技術が必要で、離島などでは過酷な現場も。点灯の自動化発展などで廃止された。

荒波にもまれ島に立つ



田後港鵜島灯台

港に入る船舶の右舷標識で、防波堤灯台と役割は同じ。荒波に削られた花崗岩の岩礁に立っており、点検などは船での上陸が必要だ。風景とのコントラストが際立つ赤色。

設置年／1931年 所 岩美郡岩美町田後
光り方／単せん赤光 毎3秒に1せん光
高さ／平均水面上から灯火までの高さ14m
地上から構造物の頂部までの高さ9.4m

文・イラスト/渡部紘巳(わたなべ・ひろみ) 納豆が大好きなイラストレーター。1982年生まれ、鳥取県育ち。づるづるした食べ物好きなこと、屋号は「スタジオづるり」。



Web

特集の記事で、ゴジラと鳥取との意外なご縁を初めて知りました。伊福部昭さん作曲のあの迫力のあるテーマ曲は、この後も愛されていくと思います。

(鳥取県米子市 小西 桂子)

炭鉱などの産業遺産が好きで、各地を巡っていますが、日南町にもあったとは。「保存活用・維持管理」という大きな課題が解決するよう切に願います。また、「ONSEN漫遊記」の「株湯」には、つい先日行ってきたところ。記事の通り、とても熱かったですが、入浴後は疲れが取れ、体調が良くなりました。

(鳥取県鳥取市 神馬 真旺)

毎回の発行を楽しみにしています。今回は、「ここにこの人」の小川彩子さんが良かったです。さっそく図書館で彼女の本をリクエストしました。いくつになっても、前向きに進む大切さに感銘を受け、自分もがんばろうと思いました。

(岡山県岡山市 佐藤 圭子)

鉱山跡に興味があり、4年前に若松鉱山の入口まで車で行きました。まさに輝き失せぬ鉱山跡。ぜひ、未来に残したいものです。

(岡山県倉敷市 難波 治一)

頁をめくったとたん、圧倒的な緑の美しさに息のみ、鳥取にもこのような歴史・場所があったのかと、驚きました。また、他のどの頁も随所に趣向が凝らされており良かったです。

(鳥取県鳥取市 小谷 邦子)

「ここにこの人」の小川彩子さんの人生がうらやましいです。世界を巡り、肌で学んだ多文化共生、すごく偉大な方ですね。それから、日南町の若松鉱山の事も知り、感動しました。

(神奈川県川崎市 井坂 洋子)

20年以上鳥取県に住んでいますが、『とっとりNOW』を拝見する事で、地元についてまだまだ知らない事がたくさんあるな〜と感心。毎回、楽しみにしています。

(鳥取県米子市 倉敷 シルビア)

■ 応募方法

下記の項目を記入し、ハガキ、FAX、電子メールまたはWebの専用応募フォームでご応募ください。

- ① 希望の商品記号または商品名
- ② 掲載記事への意見・感想
- ③ 応募用クイズの答え
- ④ 住所・氏名・年齢・電話番号

※②の感想が次号の「voice」に掲載される場合、住所・氏名が明記されることをご了承ください。また商品の当選は、発送をもって発表に代えさせていただきます。

※お預かりした個人情報、はプレゼント発送以外の目的に使用することはありません。



Web

● 応募用クイズ ●

Q 灯台の敷地内に設けられた宿舎に暮らし、保守管理の業務を担った人の役名は何? 空いた□に当てはまる漢字を記入してください。

□ 台 □

147号のクイズの答えは「天空の要塞」

■ 応募先

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)
「とっとりNOW読者プレゼント」係
メールアドレス: now@kouhouren.jp
FAX: 0857-29-6621

応募バ切

2025.

12/31

消印有効

A



愛と奇跡の親がにカレー【中辛】

(180g) 【5名】

日本海産ズワイガニのメス「親がに」の殻、赤子、内子、身は無駄なく使い、岩美町産のタマネギ、白ネギなどと一緒に煮込んだ。カニのうま味が凝縮されたオリジナルカレー。

問 道の駅 きなんせ岩美



Web

森のタンブラー 伯州綿

(475ml) 【3名】

はくしゅう
伯州綿の綿花の収穫後に廃棄されている枝を利用して、企業と境港市が共同開発したSDGsなタンブラー。デザインは地元で伯州綿のシャツを製造販売する仲里心平さんが手掛けた。

問 アサヒユアス株式会社



Web

B



星空舞の米粉シフォンぷりん

(3個セット) 【3名】

ほしぞらまい
県産ブランド米「星空舞」の米粉で作ったシフォンケーキに「白バラ牛乳」と生クリーム、山陰の卵で作ったプリン生地を染み込ませ蒸し上げた。固めの食感と濃厚な甘みが特徴。

問 L'ecrin (レクラン)



Instagram

C



Editor's note

□ ■ 編集後記 ■ □

ハートの矢で心臓を撃ち抜かれた。その一行に「きゅん」とし、欠けていた1ピースがピタリとはまったような満たされ感。これまで何度か味わった。□巻頭特集の取材で回ったライブラリー空間で、表紙の装丁に酔い文字の洪水に埋もれ、改めて豊かな気持ちになった。□遡ってみると、とりわけ幼少期に受けた影響は大きい。図鑑のリアルなイラストを初めて見た時の高揚感、涙ぐむ場面

がありありと浮かぶ児童書…。たぶん脳の奥にしっかりインプットされているのだろう。物忘れが年々加速する今でも記憶は鮮明だ。□10代後半からは主に小説。物語の展開に夢中になり、夜中まで浸る。時に迷いや惑いの救いにもなった。人生の伴侶。とも言える。□好奇心を満たし発想を育む世界の扉を、未来を担う子どもたちにぜひ開けてほしい。琴線に触れる出会いが未知の世界を広げ、身についた知力や想像力は、生きるチカラにきつとなる。【Hi】



Web